

「吉祥寺東部エリアの地域生活に関する調査」

結果報告書【簡易版】

謹啓 時下ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

私たちは、玉川大学リベラルアーツ学部・小山雄一郎研究室の社会調査グループです。皆様おかれましては、2017年4月から5月にかけて、「吉祥寺東部エリアの地域生活に関する調査」というサーベイ調査（アンケート調査）に御協力いただき、誠にありがとうございました。この調査は「社会調査実習」という授業の一環として実施させていただきましたが、履修生にとって大変貴重な学修機会となりました。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。

さて、大変遅くなってしまいましたが、このたび、結果報告書【簡易版】を作成いたしましたので、調査対象とさせていただいた全世帯の皆様に、僭越ながらお送り申し上げます次第です。甚だ不十分なものではございますが、ご笑覧ください幸いです。

なお、より詳細な調査報告書は、吉祥寺南町コミュニティセンター、本宿コミュニティセンター、吉祥寺東コミュニティセンター（九浦の家）に配架され、5月以降に閲覧可能となる予定です。ご興味・ご関心がおありの方はそちらもお読み下されば幸甚です。

あらためまして、調査への御協力に心より御礼申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

謹白

2018年3月

玉川大学リベラルアーツ学部
准教授 小山雄一郎
「社会調査実習」履修生一同

※この結果報告書【簡易版】に関するお問い合わせ先：

玉川大学リベラルアーツ学部 小山研究室
〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1 / Tel : 042-739-7154
E-mail : koyuichiro@lba.tamagawa.ac.jp 【※アドレスの@の後は小文字の「L」です】

1. 調査の概要

(1) 目的

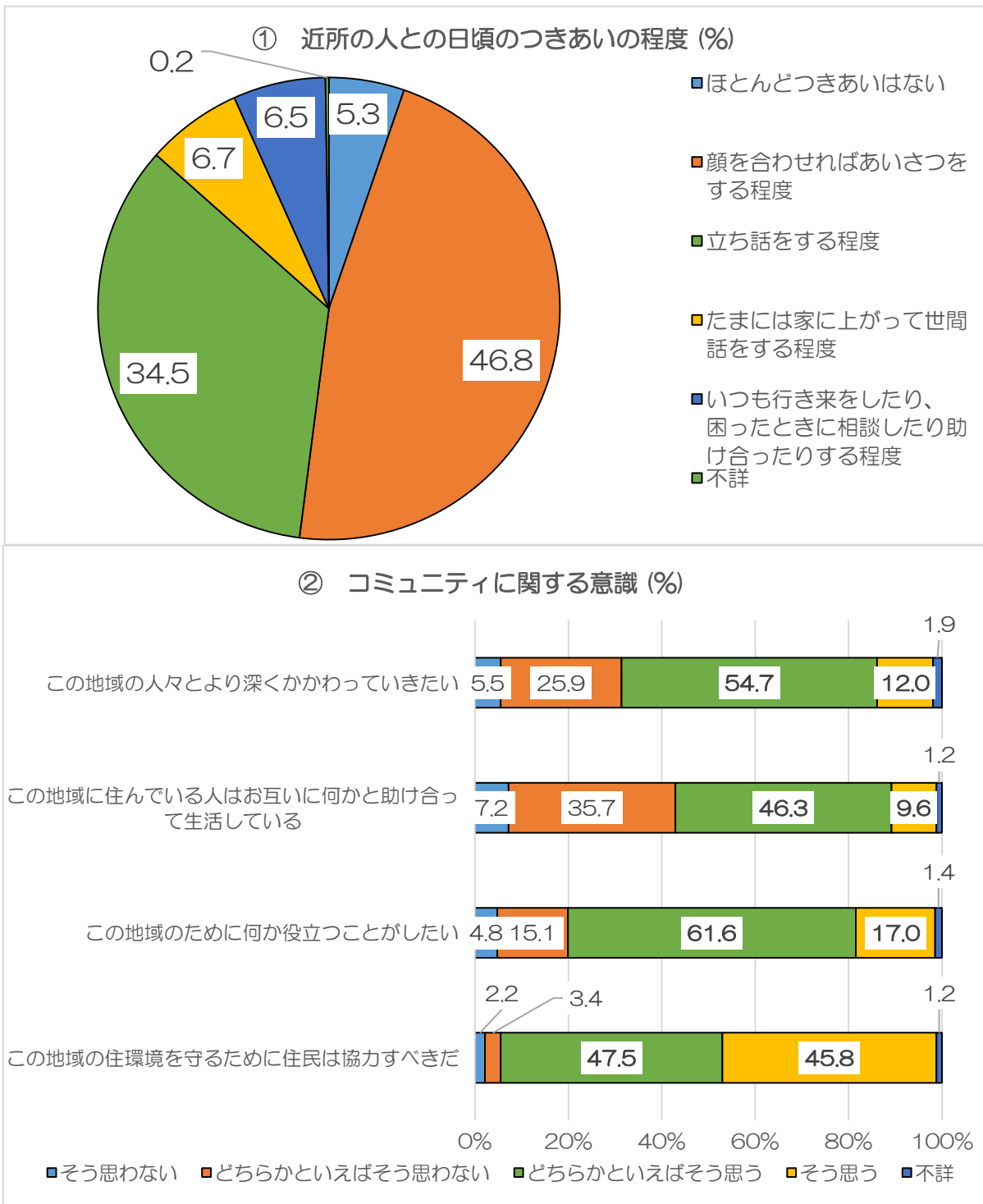
吉祥寺東町（3丁目・4丁目）および南町（3丁目・4丁目・5丁目）の住民の生活状況・生活意識を、コミュニティ、交通利用と生活圏、親交ネットワーク、道路計画に対する認識という観点から明らかにすること。

(2) 対象と方法

- ①母集団…武蔵野市内に計画されている東京都道「外環の2」の計画線上、およびそこから左右45メートルの範囲内に居住する全世帯。
- ②対象サンプル…住宅地図を用いて、上記①からランダムに1,000世帯を抽出。
- ③実査方法…戸別訪問による調査票の留め置き法。回答票の返送は郵送（着払い）またはコミュニティセンターの回収ボックスへの投函による。
- ④調査項目…コミュニティでの生活状況、親交ネットワーク、日常生活における行動・活動圏、交通利用状況、「外環の2」に関する意識、基本属性など。
- ⑤有効回収票数/有効回収率…417票/41.7%

2. 結果の概要（主要な結果からの抜粋）

(1) コミュニティについて・・・ 地域住民の絆・つながりの強さがよくわかる結果に

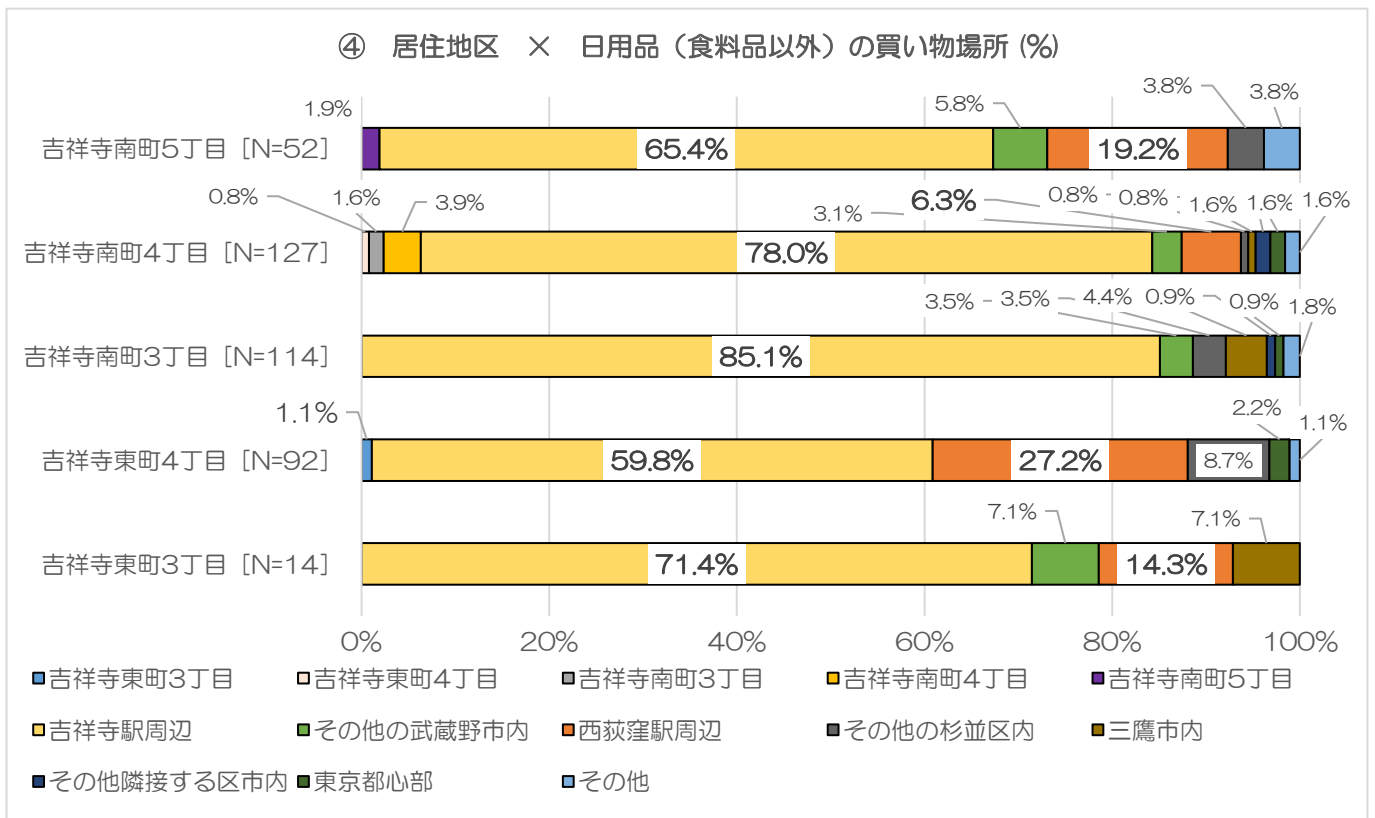
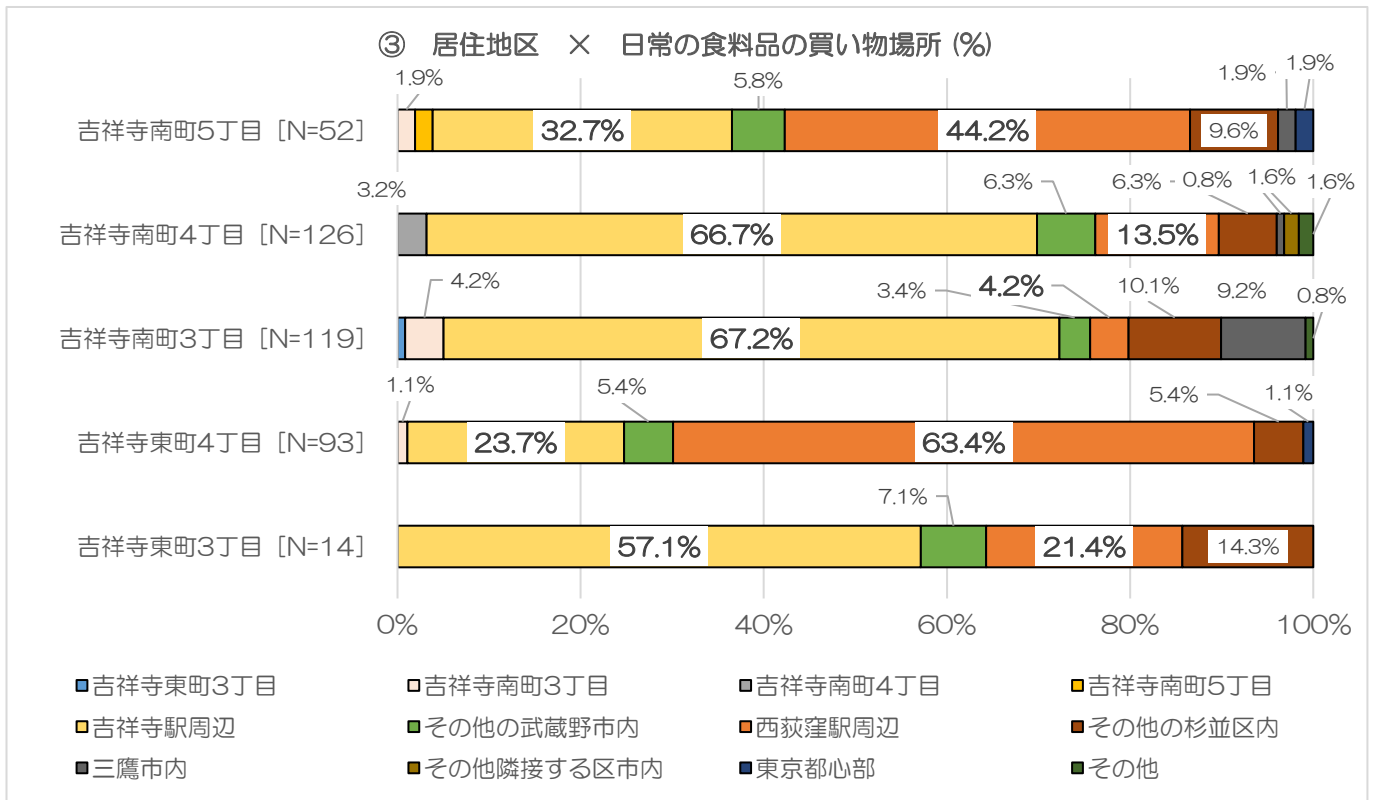


図①を見ると、ご近所とのつきあいの程度として最も高い割合を占めるのは「顔を合わせればあいさつをする程度」（46.8%）ですが、「立ち話をする程度」（34.5%）、「たまには家に上がって世間話をする程度」（6.7%）、「いつも行き来をしたり、困ったときに相談したり助け合ったりする程度」（6.5%）を合わせた割合が5割弱となっています。

また、図②によると、地域に対する認識や意欲についても、全般的に少なくとも5割以上の方が肯定的な回答（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）をしています。特に「この地域のために何か役立つことがしたい」（61.6%＋17.0%＝78.6%）、「この地域の住環境を守るために住民は協力すべきだ」（47.5%＋45.8%＝93.3%）の2項目に関しては、肯定的回答の割合の高さが際立っています。

この結果から、吉祥寺東部エリアは、コミュニティの顕在的／潜在的なつながりが強く、いわゆる社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）が豊富な地域であるといえるでしょう。

(2) 買い物圏について・・・ **居住地区や目的により、買い物圏が2つの駅周辺に分化している実態が明らかに**

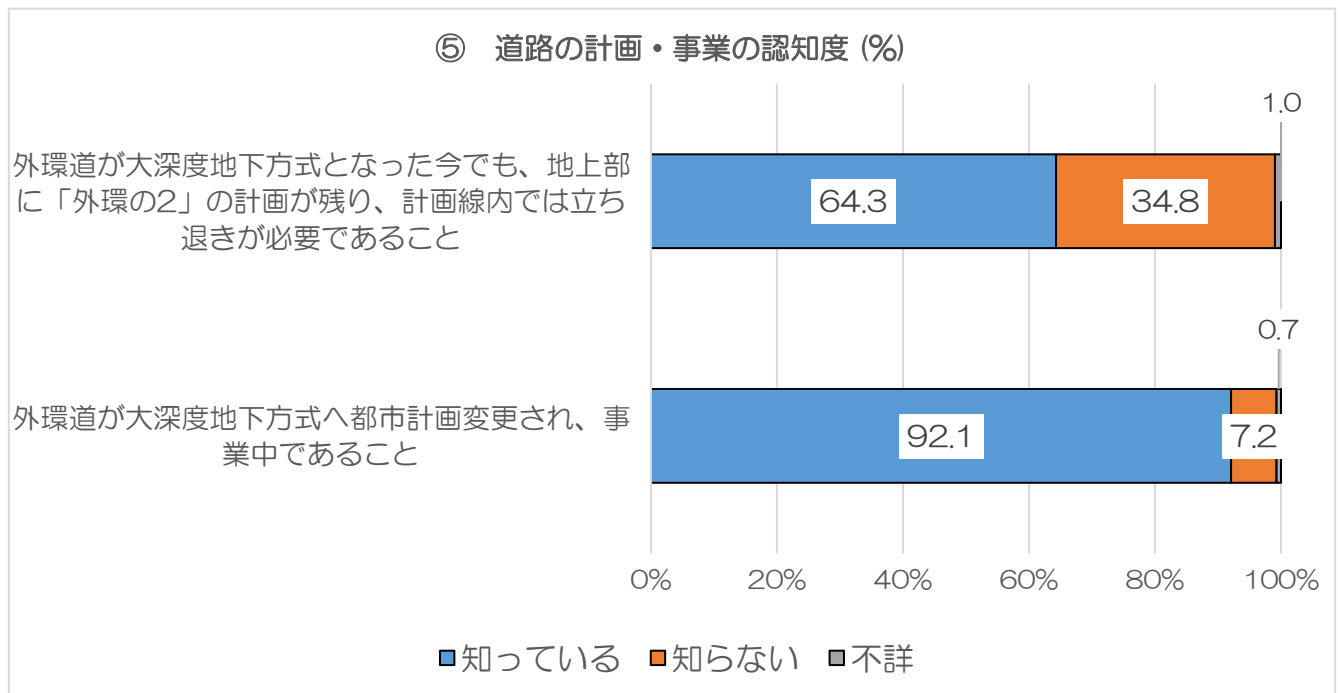


図③は、日常の食料品の買い物場所として最もよく行くところの所在地を、回答者（世帯）の居住地区別に集計した結果です。また、図④は食料品以外の日用品の買い物場所について、同じ方法で集計したものです。

日常の食料品の買い物場所をしてみると、南町3丁目、4丁目および東町3丁目では吉祥寺駅周辺とする回答割合が高く（それぞれ67.2%、66.7%、57.1%）、南町5丁目と東町4丁目では西荻窪駅周辺の回答割合が高くなっています（それぞれ44.2%、63.4%）。一方、食料品以外の日用品の場合は、南町5丁目と東町4丁目でも吉祥寺駅周辺の選択率が上がり（それぞれ65.4%、59.8%）、いずれの地区でも吉祥寺駅周辺が主な買い物圏となっています。

このように、日常の買い物圏が吉祥寺駅周辺にほぼ集中している地区と、目的によって、2つの駅周辺を買い物圏として使い分けている地区があることがわかりました。

(3) 都市計画道路「外環の2」について・・・「外環の2」の計画の認知度は64.3%にとどまる結果に



吉祥寺東部エリアには、地下方式の自動車専用道路である東京外かく環状道路（外環道）と、その地上部を通る通称「外環の2」という東京都道の計画が存在します。この2つの道路について、図⑤から計画・事業の認知度を見てみると、外環道が大深度地下方式へ計画変更され、現在事業中であることは92.1%の人が知っていますが、その地上部に「外環の2」の計画が残っており、計画線内では立ち退きが必要であることを知っている人の割合は、64.3%にとどまっています。

このように、すでに事業が進みつつある外環道に関する認知度は高いようですが、計画のあり方についてまだ議論が交わされている「外環の2」に関しては、必ずしも情報が行き渡っているとは言えないようです。

3. 最後に

以上、この結果報告書【簡易版】では主要な結果の中からいくつかを抜粋して紹介してきました。紙幅の関係で図表等を掲載できませんでしたが、その他、今回の調査では以下のようなことも明らかになっています。

(1) 親交があり、週1回以上会う地区内の友人・知人について

- ①コミュニティセンターの利用頻度が高いほど、居住地区内（同じ町丁内）の親交友人・知人の保持率も概ね高くなる傾向が見られました。
- ②年代別の結果を見ると、特に70歳代と80歳代で、このような親交友人・知人の保持率が高い結果となりました。

(2) 交通状況に対する認識について

- ①ムーバスは、全体傾向としては高く評価されていますが、総合評価得点を用いた地区別分析では、南町3丁目、東町3丁目、東町4丁目では評価が高く、南町4丁目、南町5丁目では低い結果となりました。これはムーブスの運行ルートと関係していると思われます。
- ②生活道路への車の進入に関する地区別分析では、東町3丁目、東町4丁目で危険認識度が高いことがわかりました。南北方向に移動する車が、この地区の生活道路を抜け道として利用している様子が見えます。
- ③自転車通行が歩行者へもたらす危険性については、特に南町5丁目で認識度が高い結果となりました。その要因として、JR中央線沿いの生活道路を東西に移動する自転車の存在があげられます。

表紙にも記載いたしましたが、今回の調査結果についてより詳しく知りたい方は、吉祥寺南町コミュニティセンター、本宿コミュニティセンター、吉祥寺東コミュニティセンター（九浦の家）に配架される予定の調査報告書をご覧ください。あれば幸いです。